

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.9

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



回復は一日にしてならず

10月の頭から中旬まで、不覚にも肺炎になってしまい、41度近くの高熱が続き、一時は身内の人を呼んでください。ということで、名古屋から両親も駆けつけ、数日間の入院生活を過ごしました。ストレスなのか年齢なのか、とにかく身体が限界を超えていたのだと思います。食欲も気力もなく、ベッドの上にいるときに思いました「薬物使っていた末期の頃の状態と同じだ・・・」と。

今回大事には至らず、少しずつ元気にはなってきたのですが、健康の大切さ、健康のありがたさを心の底から感じました。薬物を使う使わないということよりも、健康に生きることも回復の一つです。家族のありがたさも感じます。多くの方々、多くのダルクの施設長さんに同じ言葉をもらいました「休みなさい。あなたたちが神戸には必要なのです」という言葉を。先日浅草で開かれたJCCA(日本カトリック依存症者のための会)で全国のマック、ダルクの代表が集まり、来年度のJCCA開催が神戸に決定しました。これも「今私が何をすべきか」を導いてくれるメッセージだと受け取りました。感謝ばかりの10月を過ごした気がします。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

再訪：フィリピンの地方自治体における薬物依存症者への支援

神戸大学大学院保健学研究科 博士課程後期 田中千佳

2017 年 2 月に、フィリピン首都近郊のムンティンルパ市を訪問し、薬物依存症をもつ人を対象とした支援状況について調査した結果を、こちらにご報告しました(詳細は、2017 年 8 月発行のニューズレター Vol.3 をご参照ください)。あれから約 1 年半後の 2018 年 9 月に、短期間ですが、現地を再訪する機会がありました。あの包括的な社会再統合プログラムはどうなっているのか強い関心を持ちながら現場を訪れたところ、前回同様、良い意味で驚かされたことが 3 点あったので、簡単にご紹介します。

第一に、薬物使用で自首した人を対象とした地域での社会再統合プログラムは、2018 年も実施継続されていたということです。2016 年から 3 年目を迎えていました。この社会再統合プログラムの最大の特徴は、3 ヶ月のグループ療法の後に、収入獲得支援を受けられることです。2017 年には、収入獲得支援を受けた 280 名のうち、90 名が定職に就いたとのことでした。前の報告でもお伝えした通り、貧困は、薬物使用の背景にある重要な問題です。小さな頃に、空腹を紛らわすためにセメント剤を吸入するのが、ゲートウェイドラッグになっている現実があります。その中で、収入獲得支援に重点が置かれ、その成果が出ているとのことでした。

第二に、行政が薬物依存症から回復した当事者を、グループ療法のファシリテーターとして雇っていたことです。これには大きな感動を覚えました。ファシリテーター向けの研修をしているというので、会場を訪れた際、向こうから見覚えのある男女が近寄ってきて、声をかけてくれました。その 2 人は、1 年半前には、グループ療法を受ける側の当事者でした。彼らは、今そのグループ療法をピアとして提供する側になっていたのです。あの頃、将来への不安を語りつつも、「次に働く機会があるなら、100%言われたことをこなして、私たちが貢献できることを、世間にわかってもらいたい。自分のためだけでなく、兄弟姉妹のようなこの(グループ療法の)参加者のためにも。」とインタビューに答えていました。現在の彼らの表情は明るく、非常に嬉しい再会でした。

第三に、薬物使用で自首した人は、一旦、監視対象リストに名前が載るのですが、市政府が用意した 3 ヶ月のグループ療法プログラムを修了すれば、その監視対象者リストから名前が消されるという施策が運用されていたことです。私が、前回訪れた際は、この施策はまだ議論中で、プログラムを受けている利用をうけている人たちは、その実現を切に願っていました。それが現実のものとなっていたのです。そもそも、監視対象リストというのは、犯罪歴ではなく、何か本人の行動を制限したり、社会活動の際に申告の義務があったりするものではありません。しかし、市の薬物対策局長のお話では、「名前が載っているといつまでも不安を感じ、本人にとって良くない。グループ療法への参加のインセンティブにもなる。」とのことでした。

今回の報告をまとめると、フィリピンの地方自治体は、収入獲得支援を特徴とする地域の中でのリハビリテーションを現在も続けていました。そして、行政が当事者をピアスタッフとして雇う施策も展開されていました。また、グループ療法を修了すれば、監視対象リストから名前を消すという試みを開始していました。日本では、ダルクなどの当事者による回復施設発展の歴史がある一方、行政で依存症のピアスタッフを雇うという試みはまだまだ少ないのではないのでしょうか。現在、これら社会再統合プログラムが、当事者の QOL(生



図 2 薬物使用者への公的支援に関する意見について地域住民に尋ねている調査風景



図 1 貧しい地区の住居の様子。湖の上に竹とトタンを組み合わせ家を構えている。

活の質)にもたらしている効果についての調査を実施しようと準備中です。就職をして、その人たちの心身の健康状態は良くなっているのでしょうか。また、プログラムに参加していない当事者のニーズや、地域住民が薬物使用者への公的な支援をどう思っているかの意見に関する調査も計画しています。今後もこのプログラムの動向を追って行きたいと思います。



WCNA ナルコティクス アノニマス ワールドコンベンションに参加して

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

「家族で NA の世界大会(ワールドコンベンション)に参加したい」という言葉を妻が僕に言っていたのは、2017 年の 5 月。ちょうどその頃の自分は、ダルクが障害福祉サービスを始めたばかりの頃で、自分の給料も未払いで、スタッフの給料を金融公庫から借金をして支払っていた頃で、そんな妻の言葉に応えることなど到底できない状態でした。新婚旅行も結婚指輪も貧しくて買えませんでした。

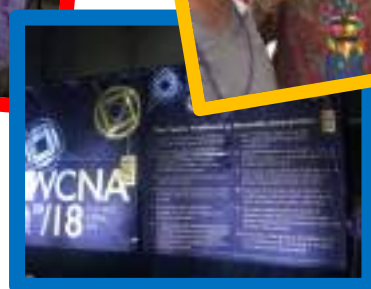
「ワールドコンベンションは回復の超特急」と言われていることもあり、また今年の開催地フロリダ州オーランドは、自分が薬物依存になる前に、世界を夢見てトレーニングしていた地であり、最後まで支えてくれた親友と過ごした場所でもあることから、どうしても妻の言葉に応えたい自分がいました。その時に思いついた苦肉の策が「禁煙してタバコ代を貯金する」ということでした。禁煙などしたことありません。しかし、僕のエゴをうまく利用し、「禁煙して貯めた金でワールドコンベンションに家族で行きました」と言いたい願望を描いて、自分のエゴが勝ったのです。

オーランドは初めてではなく3回目になります。まだ、薬物を使用する前に、ウェイクボードのプロになりたいくて、単身フロリダの WWC というトレーニングセンターに渡りました。ちょうど向井千秋さんが日本人女性初のスペースシャトルに乗った時です(ちょうど打ち上げを生で見れました)そこで出会ったのが、薬物をやめられない時に最後まで支えてくれたアジアチャンピオンの親友です。その親友も結局最後には私がひどいことをして離れていってしまいました。その頃は、その親友の相談をいつも聞いてサポートしていました。だから最後までこんな私を支えてくれたのかもしれない。だからこそ、私は、このコンベンションに家族と一緒に行ったかったのです。

今回のコンベンションのテーマは「Magic is still real」(あの奇跡は今もここに)でした。その言葉の通り、私がオーランドにいた25年前はマイアミバイスの時代、荒れに荒れた地域にもう一度奇跡を！と、NBA のオーランドマジックが奇跡の快進撃をしていた頃です。その奇跡を、私は見てきました。今回私が、家族とそして双子の子供と一緒に参加できたギフトも奇跡なのですが、本当の奇跡は、私自身が薬物を使っていないことであり、だからこそ出会えた仲間たちがいることです。そんな仲間たちと一緒に回復を喜びました。22500人の参加者がいたそうです。22500の奇跡に私は今回出会えたのです。スピーカーの話は、とても暖かく、勇気をしっかりもらいました。ワークショップでは、私たちがこれまで困っていた「刑務所でのステップライティング」などが分かち合われたり、日本に持ち帰り伝えていけるようにまとめました。そして、たくさんの世界中の仲間とも再会しました。私を助けてくれた人や、お互い違う国で出会った仲間、日本でサポートした仲間、そして、NY のヘルズキッチンで出会った仲間、私は回復の素晴らしさと、依存症にならなければならなかったことを受け取りました。

そして、コンベンションも終わり、私が住んでいた街～親友と一緒に旅したキーウエストなどの風景を、家族で一緒にもう一度見てきました。ハリケーンが来ていたので恐ろしかったですが、神は私たちの味方してくれたのか、旅の邪魔をしませんでした。家族と一緒に、のんびりした時間も過ごせました。いつもと違い家族でずっと一緒にいたので、今まで以上に子供もパパという時間を安心してくれるようになりました。

11年前に、薬が止まらなくて、涙をボロボロと流し、死んで全ての人に償おうと思っていた私が、今日の日を来るなんて思えたのでしょうか。その時は、その過去を恨みました。しかし、10年以上薬物が止まり、こんな時間を与えられました。12 ステップと仲間と希望によって私は生かされています。それを伝えていきます。絶対に私たちは回復する。次は2021年にオーストラリアのメルボルンで開催されます。



兵庫県精神保健福祉センターについて

精神保健福祉センターは、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための機関です。各都道府県と政令市に設置されています。兵庫県内には兵庫県精神保健福祉センターと神戸市精神保健福祉センターがあります。

また、平成 30 年 1 月より兵庫県精神保健福祉センター内にひょうご・こうべ依存症対策センターを開設しています。

〈兵庫県精神保健福祉センター〉

開所日時：火曜日～土曜日（祝日、年末年始）

＊月曜日がハッピーマンデー（成人の日、海の日、敬老の日および体育の日）または振替休日（祝日が日曜日にあたるときのその翌日）の場合、その前の週の土曜日は休館。

電話番号：078-252-4980

所在地：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 3 番 2 号

～ 事業案内 ～

1 相談事業

こころの悩みや精神的な病気に関すること、社会復帰、引きこもり、薬物、うつなどのご相談をお受けしています。また、お住まいの健康福祉事務所（保健所）でもご相談できます。

～来所相談～

①精神保健福祉相談

精神保健福祉士、保健師、心理士など専門職の相談員がお話をお聴きします。相談は予約制ですのでまずはお電話ください。

②医師相談

- ・精神保健医師相談（月 1 回）
- ・依存症専門医師相談（原則月 1 回）

医師相談については、精神保健福祉相談をされた方が対象となります。

～電話相談～

①こころの健康電話相談（TEL：078-252-4987）

火～土曜日（祝日・年末年始を除く）の 9：30～11：30、13：00～15：30

②ひょうご・こうべ依存症対策センター（TEL：078-251-5515 #7330）

火～金曜日（祝日・年末年始を除く）の 9：30～11：30、13：00～15：30

2 集団指導

当センターでは、ひきこもり当事者グループ、ひきこもり家族教室、家庭内暴力家族の会、薬物問題家族教室を開催しています。参加をご希望の方は、まずは精神保健福祉相談に来ていただくことになります。

3 技術支援

健康福祉事務所（保健所）や市町などの関係機関に対し、専門的立場から指導や援助を行っています。

4 教育研修

精神保健福祉業務に関わる職員の技術向上に向けた専門的な研修を行っています。

5 普及・啓発

心の健康に関する正しい理解を広めるため、講演会の開催や各種リーフレットの配布を行っています。

☆お知らせ☆ 参加希望の方はセンターにお電話ください。
11 / 17（土）平成 30 年度薬物乱用防止運動兵庫大会
11 / 30（金）ギャンブルの問題を抱える家族のための学習会

6 精神医療審査会

精神科病院における処遇等について審査に関する事務を行っています。

7 精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療（精神通院医療）

当センターでは審査と判定、交付事務を行っています。申請はお住まいの市町の窓口へお願いします。

8 調査・研究

地域精神保健福祉活動を効果的に実施していくために必要な調査研究を行っています。

9 組織育成

精神保健福祉に関連する団体や組織の活動を援助しています。

薬物問題家族教室について

当センターでは、薬物問題でお困りのご家族を対象に、月 1 回、外部講師による講義やセンター職員による心理教育プログラムテキストを使った心理教育をしています。

外部講師は、依存症専門医、弁護士、ケースワーカーとともに、ダルクや NA（当事者自助グループ）及びナラノン（家族の自助グループ）の方に体験談としてメッセージを届けに来ていただいています。

心理教育プログラムでは、テキストを使って職員と家族が和気藹々とした雰囲気の中で学習しています。

～家族教室の目標～ ①薬物依存症という病気やその回復について正しく理解すること、②依存症者に対する適切な対応法を学び実践できること、③家族自身の心身の健康を取り戻せること
特に 3 つ目を大切にしています。

長い間、当事者の方の問題に巻き込まれていると、ご家族は自分が悪いという気持ちが強くなったり、自分の力ではどうしようもならないというような無力感を抱いたりすることがあるかと思います。

まずはご家族が元気になって、当事者の方が回復するための方法を一緒に考えてみませんか？ご家族の皆さまの参加を心よりお待ちしております。

（※家族教室への参加には、まず精神保健福祉相談に来ていただくことが必要です。）



リメンバー オキナワ

スタッフ 濱津 太一

初めまして。10月22日より神戸ダルクで働かせていただく事となりました濱津です。僕自身も薬物依存からの回復を目指すアディクトの一人です。他府県のダルクで約7年働いた後、一般企業に就職し、今回約2年ぶりにまたダルクで働かせていただく事となりました。神戸ダルクでは薬物依存当事者へのサポートと運動プログラム(琉球太鼓エイサー)などを担当させていただきます。

福岡で生まれ育ちました。14年前、シボレー・アストロに乗ったレスラー張りに体の大きな九州ダルクの人が宗像の精神病院まで迎えに来てくれました。そのまま福岡空港から沖縄那覇空港へ行きました。福岡空港の搭乗ロビーから振り返った時に見えた父親の手をあげて見送る元気のない後ろ姿を今でも忘れません。僕は親不孝のドラ息子でした。那覇空港に着くと僕が初めて体験するダルクの先ゆく仲間が迎えに来てくれていました。(その先ゆく仲間とは先日2年ぶりくらいにまた再会でエイサーの事など教えてもらいました)そんな感じで僕のドラマチックで不思議な人生が沖縄ダルクから始まりました。太鼓三昧でした。太鼓屋ダルクでした。夜でもパチンコ屋の駐車場で練習しました。近所迷惑でした。ラジカセ大音量でした。バカかと思いましたが言えませんでした。人が通るたび恥ずかしいと思いました。嫌になりました。でもちょっと前までよだれ垂らしたゾンビのような僕の身体が次第に元気になっていきました。来る日も来る日も仲間たちと一緒に歩きました。仲間たちが僕の歩幅に合わせてくれました。僕の魂が少しずつ元気になっていきました。そんな回復の原点を今では懐かしく思います。仲良かった当時のダルクスタッフは数年前に亡くなりました。格闘技好きで山本 KID 徳郁が好きな人でした。よく北谷のクラブで夜な夜な遊びました。T.O.K.の I Believe がよく流れていました。当時はそのダルクスタッフの彼が死ぬなんて思ってもみなかったです。依存症は究極的には死ぬ病気なんだと痛感しました。僕も気を付けようと思いました。回復の歴史の中で仲間たちが命を懸けて見せてくれるメッセージが沢山ありました。次第に僕は薬が止まりだしました。シラフになっても問題を次から次に起こしましたが仲間が手を引っ張って助けてくれました。仲間の中で前に倒れる事さえできればまた手をついて起き上がってきました。失敗の歴史でした。でも仲間たちは何度でもやり直すチャンスを与えてくれました。僕が変わり始めるのを気長に待ってくれました。そういった全ての経験が今日苦しんでいる誰かの役に立つんだって事も先人たちが教えてくれました。自分の経験が財産に変わりだしました。

ダルクの使命は「今日苦しんでいる仲間の手助け」です。かつて生きてるのか死んでるのかさえわからなかった僕に届いた奇跡のメッセージが、未だ今夜もどこかの路地裏で下を向いて燻っているタフな魂たちにも届く事を僕は願っています。その為に頑張るんです。

そんなこんなで僕の回復途上で起こった全ての出来事、経験のおかげで今改めて聞く琉球太鼓の「三線の花」のたった一音の太鼓の音に響くヴァイブスに僕の回復の歴史全てが聞こえます。回復って凄くパワフルです!! どうぞ皆さまこれからも神戸ダルクへのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

皆様からのご献金が開設から今日までで、
535,691 円になりました。誠にありがとうございます。
その一部を、神戸ダルクで行なっている、刑務所内での仲間の支援に使いたと思います。主に、文通でのサポート、文献の供給です。
92 円切手 200 枚 18400 円
140 円切手 200 枚 28000 円
NA 文献「今日だけ」 30 冊 54000 円
合計 100400 円 になります。刑務所の仲間への支援によって、回復のチャンスを掴み希望が持てるようにボランティアで活動しています。



活動報告

2018 年 9 月(19 日より)

ダルク意見交換会品川参加

リカバリーパレード大阪参加

琉球太鼓練習開始

市民救命士講習

ケアカフェ明舞講演

防火管理責任者講習

木津川ダルク合同フェロー(東大寺)

アディクションフォーラム実行委員会

兵庫県養父市立大屋中学校講演

兵庫県養父市立八鹿青溪中学校講演

10 月

厚労省再乱用防止対策講習会参加

神戸医療福祉専門学校生徒さん 1 日体験

感染症予防講座参加

感染症予防講習実践

NA 関西エリアギャザリング「こんぜの里」参加

群馬ダルク依存症講座参加

触法障害者研修参加

浄土宗保護司会近畿地区研修会講演

川西市薬剤師会研修会講演

木口福祉財団感謝の集い参加

JCCA 浅草参加

兵庫県立姫路北高等学校講演

京都ダルクフォーラム参加

WFTC 治療共同体世界会議参加

11 月

NA 関西エリア PI セミナー参加

賀川記念館バザーボランティア

NA ワールドサービス PR ワークショップ川崎参加

神戸市精神保健福祉センター講演

高松刑務所薬物乱用防止教育講師

アゲインファーム ボランティア 月2回

垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日

垂水病院スマーブ 毎週金曜日

神戸保護観察所スマーブ講師 毎月2回

神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日

明石保健所家族相談 毎月1回



近況報告・活動予定

新しいスタッフの協力で、太鼓プログラムにも精が出ます。小さな畑を借りる計画や、就労支援の活動も計画しております。セミナーなどの予定は

12/22～23 家族会クリスマス合宿

1/19 依存症セミナー in 神戸

2/2 第2回アディクションフォーラム in ひょうごなどになります。詳しくはホームページか、チラシをご確認ください。

冬に向けて、鍋パーティーや、年越しの準備もう直ぐですね。年末年始にはそれらのことをニューズレターでお知らせしたいと思います。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュョールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。

個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

林隆雄様 平野茂様 兵庫県健康保健福祉部健康局薬務課 薬務対策・捜査班様 猪木より子様

金田知子様 坂野紘子様 谷家優子様

ご献品

神戸イエス団教会 上内鏡子様 大口篤様 竹川智恵子 尾崎ひとみ様 辻美佐枝様

(平成 30 年 9 月 7 日～平成 30 年 11 月 2 日到着分・順不同 ※購読料の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

これから年末を迎え、久しぶりのお正月やクリスマスを経験する仲間がいます。刑務所の中ではなく、病院の中ではなく、一人ではない普通のお正月を迎えられるということは、一般では当たり前のことですが、依存症者にとってはかけがえのないものになります。昨年と同様、今年も神戸ダルクの年末年始に休みはありません。仲間と普通の正月を過ごすために、クリスマス会、年末にはおせち料理を作り、年越しそばを食べ、お餅を食べ、美味しいものをみんなで食べるお正月を過ごすために、日々の食費を少しずつ切り詰めてきました。ですがまだ少し食材や食材費が足りません。年末年始は、私たちは寂しい気持ちで過ごしてきました。普通に正月を過ごすことで、再発予防への力になります。勝手ですがご協力ください。また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から、洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブなどもございましたら是非送譲ってください。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 ○九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

寒くなりました。秋支度をしている合間にあつという間に冬支度に移り変わります。おそらくアディクトの多くが冬の朝は苦手でしょう。それはなぜか？ 孤独と寒さは相性が良くないからです。回復が始まって数年はその気持ちを埋められませんが、気がついたら、そんな気持ちもなくなって、まわりには常に仲間がいました。自分の気持ちを正直に話すミーティングに偉大な力が宿る時は、いつも暖かいものを手にすることができます。秋はいろいろな秋がありますが、スピリチュアルな秋というのはいかがでしょう。次号は新しい活動や助成金報告などが中心です。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.9

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントパック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階